

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	令和 2 年 6 月 5 日
-------	----------------

市所管部署	石巻市 産業部観光課
-------	------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人慶長遣欧使節船協会
法人所在地	石巻市 渡波字大森30番地2
設立年月日	平成 4 年 1 月 22 日
代表者職・氏名	代表理事 一力 雅彦

設立目的・経過	慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供することにより、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与すること。
---------	---

3 定款上の事業内容

- (1) 慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究
- (2) 慶長遣欧使節に関する資料の収集・展示
- (3) 船舶及び海洋に関する資料の収集・展示
- (4) 海事思想の普及・啓蒙
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
1,000,000 千円	500,000 千円	50.0 %	宮城県	500,000 千円	50.0 %
				千円	0.0 %
				千円	0.0 %

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H29期末	H30期末	R1期末
常勤			
うち市職員			
うち市退職者			
非常勤	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	1	1	1
計	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	1	1	1

(2) 職員

	H29期末	H30期末	R1期末
常勤	10	9	10
うち市職員			
うち市退職者	1	1	1
非常勤	9	9	8
うち市職員			
うち市退職者			1
計	19	18	18
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	2

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

<p>慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供する事より、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与する事を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究 ②慶長遣欧使節に関する資料の収集・展示 ③船舶及び海洋に関する資料の収集・展示 ④海事思想の普及・啓蒙 ⑤宮城県の指定を受けて行う慶長遣欧使節船ミュージアムの管理運営 ⑥石巻市の指定を受けて行うサン・ファン・パウティスタパークの管理運営 ⑦その他この法人の目的を達成するためにの必要事項
--

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成30年度期	令和元年度期	令和2年度期	令和3年度期	令和4年度期
慶長遣欧使節ミュージアム入館料	円	目標計画	6,669,000	7,220,000	7,220,000	7,220,000	7,220,000
		実績	6,683,250	6,680,050			
目標・指標の説明			復元船への乗船見学中止(H28)により来館者が半減したが、館内展示の充実、スマホ向けWEBサイトの活用、特別開館や延長開館の実施により少しずつ来館者が増加してきた。そのような中、前期においては、更なる来館者誘致に向け、復元船乗船を疑似体験するVRコンテンツの上映やイルミネーションの拡大実施を行った。令和2年度は現復元船ファイナル事業の最終年度にふさわしい事業を、コロナ対策等を万全にしながら推し進めていきたい。				
目標未達の場合の要因分析			記録的な猛暑による外出者(観光客)の減少のほか、年度末のコロナ禍が決定的な来館者の減少を招いた。				

目標項目・指標	単位		平成30年度期	令和元年度期	令和2年度期	令和3年度期	令和4年度期
慶長遣欧使節ミュージアム入館者数	人	目標計画	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000
		実績	32,544	31,188			
目標・指標の説明			復元船への乗船見学中止(H28)により来館者が半減したが、館内展示の充実、スマホ向けWEBサイトの活用、特別開館や延長開館の実施により少しずつ来館者が増加してきた。そのような中、前期においては、更なる来館者誘致に向け、復元船乗船を疑似体験するVRコンテンツの上映やイルミネーションの拡大実施を行った。令和2年度は現復元船ファイナル事業の最終年度にふさわしい事業を、コロナ対策等を万全にしながら推し進めていきたい。				
目標未達の場合の要因分析			記録的な猛暑による外出者(観光客)の減少のほか、年度末のコロナ禍が決定的な来館者の減少を招いた。				

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①第26回サン・ファン祭り ②サン・ファンライトアップ及びイルミネーションツリー ③新規：出帆記念イベント ④市民団体による各種イベントの実施	①市民団体手作りのサン・ファン祭りに12,000人が来場 ②11月から翌年初までイルミネーションツリーを実施。夜間特別開館に約487人が来館 ③落語やお笑いショー、時代の遊びなど参加型の出帆記念イベントに1,503人が参加 ④恒例となった「渡波市民夏祭り」や「石恋まつり」など市民参加型のイベントに貸出した。	石巻三大祭りの一つ「サン・ファン祭り」や年末の「イルミネーションツリー」の実施及び地域住民づくりの「渡波市民夏祭り」さらに震災後定着した「石恋まつり」など復興関連イベントの会場としてサン・ファンパークを貸し出し、多くの来場者に慶長使節の意義と県民共有の財産である復元船のPRに努めた。	①市民団体手作りのサン・ファン祭りに15,000人が来場 ②11月から翌年初までイルミネーションツリーを実施。夜間特別開館に約363人が来館 ③落語やお笑いショー、時代の遊びなど参加型の出帆記念イベントに1,474人が参加 ④恒例となった「渡波市民夏祭り」や「石恋まつり」など市民参加型のイベントに貸出した。
事業の公共性、公益性	平成28年度から復元船の老朽化等に伴い乗船見学を禁止したことにより施設の展示内容が大幅に減少したことから、展望棟ロビーを活用した展示拡充や隣接するサン・ファン・バウティスタパークでの各種イベント事業により集客を図りPRに努めた。		

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①復元船ファイナル記念シンポジウム「時空をむすぶ帆船」を開催 ②復元船ファイナル記念企画展「サン・ファン号のすべて」を開催 ③館長歴史講座「慶長使節が育んだ世界」開催 ④絵画コンクール、絵画教室の開催 ⑤体験学習の開催	①帆船海王丸第35代船長齋藤重信氏を招き記念講演・パネルディスカッションを行い、約70名が参加した。 ②サン・ファン号に関する歴史や技術に関する展示を行った。 ③濱田館長が6回シリーズで講座を行い、計175名が参加した。 ④絵画教室と連携したコンクールを開催し73点の応募があった。 ⑤親子を対象に「帆船づくり体験」に30名の児童が参加し帆船模型を製作した。	①記念講演・パネルディスカッションを行い、帆船文化の現代における役割について理解を深めた。 ②サン・ファン号に関する歴史や技術に対する理解を深めた。 ③慶長使節の航路や、伊達政宗をテーマに講演し慶長使節の啓蒙を図った。 ④絵画教室と連携したコンクールを開催し児童生徒に慶長使節の意義を学んでもらった。 ⑤親子を対象に「帆船づくり体験」を実施し木造帆船に親しんでもらった。	①牡鹿・石巻の観光をテーマとしたシンポジウムを開催した ②これまで当ミュージアムに寄贈された帆船模型等を展示した ③館長歴史講座「伊達の文化と慶長使節」を月1回計5回開催した ④第3回絵画教室を開催した。また第10回絵画コンクールに多くの応募(68点)があった。 ⑤体験学習「海に集い、船に学び、木の文化を知る」を開催し698人が参加
事業の公共性、公益性	慶長使節の派遣目的が我が国初の外交使節であるとの史実に加え、使節派遣の2年前に仙台藩を襲った「慶長の大津波」からの復興もその要因の一つではないかと考えられることから、復元船を震災復興のシンボルとして位置付け展示を実施し普及・啓蒙に努めた。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

別紙のとおり。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

団体名称	公益財団法人慶長遣欧使節船協会
------	-----------------

1 財務諸表（金額単位：千円）

	借方（科目）	平成29年度期	平成30年度期	前期増減	令和元年度期	前期増減	
貸借対照表 (B/S)	流動資産	109,543	117,536	7,993	99,358	▲ 18,178	
	うち 現金・預金	107,911	115,579	7,668	97,390	▲ 18,189	
	固定資産	1,144,143	1,164,487	20,344	1,141,645	▲ 22,842	
	(1) 基本財産	1,137,775	1,157,909	20,134	1,136,988	▲ 20,921	
	(2) 特定資産			0		0	
	(3) その他の固定資産	6,368	6,578	210	4,657	▲ 1,921	
	資産の合計	1,253,686	1,282,023	28,337	1,241,003	▲ 41,020	
	貸方（科目）		平成29年度期	平成30年度期	前期増減	令和元年度期	前期増減
	流動負債	13,604	28,625	15,021	10,291	▲ 18,334	
	うち 短期借入金			0		0	
	固定負債			0		0	
	うち 長期借入金			0		0	
	負債合計	13,604	28,625	15,021	10,291	▲ 18,334	
	正味財産	1,240,082	1,253,398	13,316	1,230,712	▲ 22,686	
	指定正味財産	1,137,775	1,157,909	20,134	1,136,988	▲ 20,921	
	うち 基本財産への充当額	1,137,775	1,157,909	20,134	1,136,988	▲ 20,921	
	うち 特定資産への充当額			0		0	
	一般正味財産	102,307	95,489	▲ 6,818	93,724	▲ 1,765	
	うち 基本財産への充当額			0		0	
	うち 特定資産への充当額			0		0	
負債・正味財産の合計	1,253,686	1,282,023	28,337	1,241,003	▲ 41,020		

	科目	平成29年度期	平成30年度期	前期増減	令和元年度期	前期増減
正味財産増減計算書	一般正味財産増減の部	▲ 1,177	▲ 6,746	▲ 5,569	▲ 1,693	5,053
	経常増減の部	▲ 1,177	▲ 6,746	▲ 5,569	▲ 1,693	5,053
	経常収益	198,159	197,099	▲ 1,060	195,942	▲ 1,157
	経常費用	199,336	203,845	4,509	197,635	▲ 6,210
	評価損益等計			0		0
	経常外増減の部	0	0	0	0	0
	経常外収益			0		0
	経常外費用	0	0	0	0	0
	法人税、住民税及び事業税	72	72	0	72	0
	一般正味財産期首残高	103,556	102,307	▲ 1,249	95,489	▲ 6,818
	一般正味財産期末残高	102,307	95,489	▲ 6,818	93,724	▲ 1,765
	指定正味財産増減の部	22,903	20,134	▲ 2,769	▲ 20,921	▲ 41,055
	指定正味財産増減額	22,903	20,134	▲ 2,769	▲ 20,921	▲ 41,055
	指定正味財産期首残高	1,114,872	1,137,775	22,903	1,157,909	20,134
	指定正味財産期末残高	1,137,775	1,157,909	20,134	1,136,988	▲ 20,921
	正味財産期末残高	1,240,082	1,253,398	13,316	1,230,712	▲ 22,686

(※) 負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。
 ※財務諸表を添付すること。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

区分		平成29年度期	平成30年度期	前期増減	令和元年度期	前期増減
キャッシュ・フロー計算書（C/S）	事業活動によるキャッシュ・フロー	13,665	20,306	6,641	▲ 29,005	▲ 49,311
	当期一般正味財産増減額	▲ 1,177	▲ 6,746	▲ 5,569	▲ 1,693	5,053
	キャッシュ・フローへの調整額	▲ 8,060	6,918	14,978	▲ 6,391	▲ 13,309
	指定正味財産増加収入	22,902	20,134	▲ 2,768	▲ 20,921	▲ 41,055
				0		0
				0		0
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 12,140	▲ 12,638	▲ 498	10,816	23,454
	投資活動収入	12	12	0	10,836	10,824
	投資活動支出	▲ 12,152	▲ 12,650	▲ 498	▲ 20	12,630
				0		0
				0		0
				0		0
	財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	0	0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
現金及び現金同等物に係る換算差額			0		0	
現金及び現金同等物の増減額	1,525	7,668	6,143	▲ 18,189	▲ 25,857	
現金及び現金同等物期首残高	106,386	107,911	1,525	115,579	7,668	
現金及び現金同等物期末残高	107,911	115,579	7,668	97,390	▲ 18,189	

（※1）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

2 市による財政・金融支援等（金額単位：千円）

区分		平成29年度期	平成30年度期	前期増減	令和元年度期	前期増減
補助金（交付金・助成金・負担金）		0	0	0	0	0
事業費補助金（交付金・助成金・負担金）				0		0
管理費補助金（交付金・助成金・負担金）				0		0
委託料及び指定管理料		39,696	39,517	▲ 179	39,543	▲ 26
借入金（期末残高）		0	0	0	0	0
短期借入金				0		0
長期借入金				0		0
出資・出捐（期末時）				0		0
債務保証額（期末残高）				0		0
損失補償額（期末残高）				0		0
その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）				0		0
				0		0
				0		0

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

情報公開シートⅡ補足資料

法人名：公益財団法人慶長遣欧使節船協会

1 貸借対照表に関する補足

(1) 総括分析

投資有価証券（国債等）の期末時価の減額により金額が減少した。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
現金・預金	18,189千円減	昨年度末が休日のため支払が今期になった
基本財産	20,921千円減	当期有価証券の期末時価の減額
未払金	20,473千円減	昨年度末が休日のため支払が今期になった

2 損益計算書又は正味財産増減計算書に関する補足

(1) 総括分析

復元船への乗船見学中止(H28)により来館者が半減したが、館内展示の充実、スマホ向けWEBサイトの活用、特別開館や延長開館の実施により少しずつ来館者が増加してきた。そのような中、当期においては、更なる来館者誘致に向け、復元船乗船を疑似体験するVRコンテンツの上映やイルミネーションの拡大実施を行ったが、記録的な猛暑による外出者（観光客）の減少に、年度末のコロナ禍が決定的な影響を与え、来館者数は前年比4.2%の減少となった。

有料入館者がほぼ前期と同数を維持したことから、利用料金収入はほぼ同額となった。復元船の公開終了(令和2年度末)を記念する「復元船ファイナル事業」として「シンポジウム」「出帆記念イベント」「イルミネーション」等を例年に増し盛大に開催したが、前期と比較して委託費が約800万円減少したため経常増減額は前期比約500万円の増加となった。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
給料手当	2,468千円増	総務課に職員1名の増加
委託費	7,799千円減	昨年度集客設備の充実
指定正味財産増減額	20,921千円減	当期有価証券の期末時価の減額

3 キャッシュフロー計算書に関する補足

(1) 総括分析

昨年度末が休日であり、支払いが今期になったことから現金預金の残高は減少したが、純資産額の大きな変化はなかった。

(2) 数値が変動した区分及びその要因

項目	変動内容	変動要因
指定正味財産増加 収入	20,921千円減	当期有価証券の期末時価の減額
投資活動収入	10,836千円増	有価証券の売却及び保証金戻りにより 増額

4 市による財政・金融支援等に関する補足

(1) 市からの補助金等の交付状況

補助金等の名称	補助金額(単位：円)	補助金の使途

(2) 市からの委託業務等（指定管理含む）の状況

委託業務の名称	委託料(単位：円)	委託業務の内容
指定管理料	39,543,450	サン・ファン・パウティスタパークの管理運営

(3) 税、使用料、手数料等の減免の状況

減免されている税目等名称	減免額(単位：円)	減免理由

市が期待する役割、市意見等（別紙）

法人名：公益財団法人慶長遣欧使節船協会

担当部署名：産業部観光課

1 第三セクター情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）に対する意見

（１）中間的な経営目的・事業計画

平成25年11月3日に再開館したが、平成28年3月より、復元船の老朽化のため乗船見学が中止となった。

通年で乗船見学ができない現状での入館者数・売上高が実績として把握できたことから中期的な視点で事業計画及び目標数値を定められたと考える。

（２）主要事業の成果、課題

今後も、宮城県慶長使節船ミュージアムと合わせて石巻市サン・ファン・パウティスタパークを活用し、相乗効果で来館者数の増加に期待したい。

また、復元船の老朽化による乗船見学中止により、集客面での課題はあるが、展望棟ロビーを活用した展示拡充やサン・ファンファイナルイベント（H30～R2）の開催、スマホWEBサイトの充実、VRコンテンツの制作等により、観光客の利用促進を図っている。

2 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）に対する意見

（１）貸借対照表

特になし。

（２）損益計算書又は正味財産増減計算書

特になし。

(3) キャッシュフロー計算書

特になし。

(4) 市による財政・金融支援等

石巻市サン・ファン・バウティスタパーク指定管理料として支出している金額であり、今後も年度協定で定められた指定管理料において適正かつ効果的・効率的な運営に努められたい。

3 法人に対し市が期待する役割等（担当部署所感）

慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的事績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供し、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与する目的を果たす上においても、市民が参加しやすい企画・イベント等の創意工夫を重ね、ひいては入館者数の増加につながるよう期待したい。

また、現サン・ファン・バウティスタ復元船ファイナルイベントについては、各関係団体と積極的に連携を図りながら、地域の振興に資する各種事業を実施し、東日本大震災からの再生・復興のみならず、歴史・文化・国際交流の観点から、更なる観光客の誘致を図り、地域の振興に寄与することを期待する。